

赤ちゃんとお母さんの感染予防対策について

風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、B型肝炎ウイルス、トキソプラズマなどの微生物は、妊娠中、産後に、お母さんから赤ちゃんへ感染して、赤ちゃんに病気を起こすことがあります。感染予防対策について、正しい知識を身につけておくことが大切です。



①妊娠中は家族、産後は自分にワクチンを接種して予防しましょう！

- ・ 風疹、麻疹、水痘、おたふくかぜは、ワクチンで予防できます。ただし、妊娠中はワクチンを接種できません。特に風疹は、妊娠中に感染すると、胎児に先天性風疹症候群を起こすことがあります。
- ・ 妊婦健診で、風疹抗体を持っていない、あるいは抗体の値が低い場合は、同居の家族に麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種してもらいましょう。麻疹は流産の可能性もあります。



②こんな時は手をよく洗いましょう！

- ・ 食事の前
- ・ 調理時に生肉を扱う時
- ・ ガーデニングをする時
- ・ 動物（猫など）の糞を処理する時など



③体液に注意！（尿、だ液など）

- ・ おむつ交換時、使い捨ての手袋をつけて処理するか、その後手を洗いましょう。
- ・ お子さんの食べ残しは食べないようにしましょう。
- ・ 家族でも食器等は共有しないようにしましょう。



④しっかり加熱したものを！

- ・ 生肉（火を十分に通していない肉）、生ハム、サラミ、加熱していないチーズなどは感染の原因となる微生物が含まれていることがあります。妊娠中は食べないようにしましょう。
- ・ 生野菜はしっかり洗いましょう。



⑤人ごみは避けましょう！

- ・ 風疹、インフルエンザなどの飛沫で感染する病気が流行している時は、人ごみを避け、外出時にはマスクを着用しましょう。
- ・ 子どもはいろいろな感染症にかかりやすいため、熱や発疹のある子どもには注意しましょう。



出典：日本周産期・新生児医学会 日本産科婦人科学会
赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条

北名古屋市保健センター TEL:0568-23-4000